

## コミュニケーション学

責任者・コーディネーター	歯科医学教育学分野 浅野明子 准教授			
担当講座（分野）	臨床講座			
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	後期		前期	—
			後期	12.0時間 38.0時間

### 学修方針（講義概要等）

医療面接情報収集、口腔内検査、医療安全、感染対策など患者治療に必要な知識、技術を習得する。

### 教育成果（アウトカム）

講義、実習を通して、基本的な医療コミュニケーション、感染対策の能力を身に付けることができる。また口腔領域に発症する頻度の高い歯科疾患の診断ならびに必要な知識と基本的検査の手技を習得する。

（関連するディプロマポリシー：1～4、6）

### 到達目標（SBOs）

1. 医療面接の目的と方法、手技を説明できる。
2. 医療情報収集（歯科体系、専門用語、主訴、現病歴、既往歴）を説明できる。
3. 歯科医の心構えを理解し、診断の基本を説明できる。
4. チーム医療における歯科医師の役割を理解し、多職種連携について説明できる。
5. 基本的な初診時の医療面接を行うことができる。
6. 基本的な診療姿勢を身に着ける。

### 事前事後学修の具体的内容及び時間

#### 【事前学修】

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、WEBCLASS上の講義資料等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。

#### 【事後学修】

講義・実習等で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/10 (木)	3	浅野明子准教授 (歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野) 千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	<b>科目の概要</b> <b>医療コミュニケーション1</b> <b>医療面接の意義</b>  医療面接の目的、必要な聴取項目等を理解することで、適切な医療面接が行えるようになる。	1. 科目の目標、概要、評価法について説明できる。 2. 医療面接の目的を説明する。 3. 医療面接時の心構え得を理解する。 4. 主訴について説明する。 5. 医療面接に必須のコンテンツを列挙できる。主訴に対する現病歴の医療面接の仕方を説明する。 6. 既往歴(全身、口腔関連領域)について説明する。 <b>[PR-01, GE-01, CM-01, D-2-1, E-2-1]</b> DESS演習の準備をしておくこと。 事前学修：WebClassの資料を理解しておく。3年次、社会と歯学教科書スタンダード社会歯科学第8版書籍 p. 28-40を読んでまとめておく。講義の最初に事前学修の内容についてプレゼンテーションの機会を設ける。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/17 (木)	3	千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	<b>医療コミュニケーション2</b> <b>医療情報</b>  患者からの医療情報収集に必要な用語等(歯科診療体系、専門用語、主訴、既往歴、現病歴)を理解することで、適切な医療面接が行えるようになる。	1. 診療録の意義を説明する。 2. 診療録に記載する項目を列挙する。 3. 歯式の記入法を説明する。 4. 歯式に用いる略語を説明する。 5. 主訴の定義、種類を説明する。 6. 主訴に対する現病歴の医療面接の仕方を説明する。 7. 既往歴(全身、口腔関連領域)について説明する。 <b>[CM-01, C-6-3-2, D-4-1-1]</b> 事前学修：WebClassの資料を理解しておく。3年次、社会と歯学講義「5. 診療所に関する諸記録と管理」資料、書籍、インターネット等で診療録について調べ、まとめておく。所要時間30分程度。 事後学習：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	9/24 (木)	3	千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	<b>医療コミュニケーション3 患者へのアプローチ</b>  患者に対する歯科医の心構えを理解するとともに、診断の基本について説明できるようになる。	1. 疾患の慢性期と急性期における医療面接の差を概説できる。 2. 日常診療におけるインフォームドコンセントの重要性を説明できる。 3. 診断に必要な主観的及び客観的情報を列挙できる。 4. 医療情報の収集方法を説明できる。 5. 診断を患者にわかりやすく説明できる。 <b>[D-2-1, E-2-1]</b> 事前学修：WebClassの資料を理解しておく。書籍で患者に対する歯科医の心構えについて調べ、まとめておく。講義の最初に事前学修の内容についてプレゼンテーションの機会を設ける。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/1 (木)	3	千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	<b>医療コミュニケーション4 チーム医療と多職種連携</b>  チーム医療における歯科医師の役割を理解し、多職種連携について説明できるようになる。	1. 医療チームの種類を列挙できる。 2. チーム医療における各種職業の役割について説明できる。 3. チームの形成過程について説明できる。 4. 多職種連携について説明できる。 <b>[A-1-2)、A-4、A-5]</b> DESS演習の準備をしておくこと。 事前学修：WebClassの資料を理解しておく。書籍でチーム医療と多職種連携について調べ、まとめておく。講義の最初に事前学修の内容についてプレゼンテーションの機会を設ける。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	11/19 (木)	3	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座予防歯科学分野)	<b>感染対策</b> 全ての歯科診療に共通な感染対策を学ぶことによって患者への対応の基本が身につく。	1. 安全、安心な医療提供について説明できる。 2. 臨床の場における感染の要因と連鎖について説明できる。 3. スタンダードプレコーションについて説明できる。 <b>[PS-09, A-4-1-7~9, C-7-5, E-1-1]</b> 事前学修：2, 3年次の感染、免疫に関する教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	12/9 (水)	2	坪田まり子非常勤講師 千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	<b>歯科医師に必要とされるコミュニケーション力</b> コミュニケーションの意義と技法を学ぶことで患者中心の歯科医療におけるコミュニケーションの意義を理解することができる。	1.メラビアン <sup>1</sup> の法則を理解し、自分自身に活用できる。 2.患者から見た歯科医師としての自分の印象を想像できる。 3.相手を不快にさせない聞き方、話し方の原則を列挙できる。 4.医療面接に活かす自分自身の長所を列挙できる。 5.自分の歯科医師としてのキャリアビジョンを模索できる。 <b>[CM-01~04、C-1-2-3, 4]</b> 事前学修：コミュニケーションに関する任意の書物、記事などを読んでおくこと。
----	-------------	---	------------------------------------	--	--

## 実習日程表

実習	10/8 (木)	1 2	浅野明子准教授 (歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野) 千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野) 他臨床講座	<b>医療コミュニケーション実習①(矢巾実習室)</b> ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。	1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 <b>[E-2-1]</b> 事前学習：講義「医療コミュニケーション1-4」の内容を復習し、各自医療面接の歯科医師役をシミュレーション練習して実習に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。
実習	10/15 (木)	1 2	浅野明子准教授 (歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野) 千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野) 他臨床講座	<b>医療コミュニケーション実習②(矢巾実習室)</b> ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。	1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 <b>[E-2-1]</b> 事前学習：講義「医療コミュニケーション1-4」の内容を復習し、各自医療面接の歯科医師役をシミュレーション練習して実習に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。
実習	11/12 (木)	1 2	浅野明子准教授 (歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野) 千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野) 他臨床講座	<b>医療コミュニケーション実習③(矢巾実習室)</b> ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。	1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 <b>[E-2-1]</b> 事前学習：講義「医療コミュニケーション1-4」の内容を復習し、各自医療面接の歯科医師役をシミュレーション練習して実習に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。

実習	11/26 (木)	3	浅野明子准教授 (歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野) 千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野) 佐藤俊郎准教授 衣斐美歩講師 (口腔医学講座予防歯科学分野)	<b>感染対策実習（矢巾実習室）</b>  臨床の場における感染予防対策を実施できるようになる。	1. 術前・術後の手洗いを適切に実施できる。 2. 防護衣の装着、脱着を実施できる。 <b>[E-1-1]</b> 事前学修：感染対策の講義内容を復習し実習に望むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	12/10 (木)	3	千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	<b>補足実習</b> ※該当者のみ、それ以外は出席確認無し、自主学习  <b>医療コミュニケーション実習</b> ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。	以下の項目を規定時間内に実施できる。  1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 <b>[E-2-1]</b> 事前学習：補足実習該当者は、「医療面接実習」の内容を復習し、各自シミュレーション練習して実習に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。
実習	1/15 (金)	3 4	佐藤俊郎准教授 大石泰子助教 佐藤華子助教 杉山由紀子助教 (予防歯科学分野)	<b>口腔内状態の記録</b>	1. 口腔内の歯式を正しく記録することができる。 <b>[E-2-2-3]</b> 事前学修：事前に口腔内状態の記録（硬組織診査等）について該当する講義資料等を調べてまとめておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。
実習	1/18 (月)	3 4	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 平野大輔講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 太田藍理助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野)	<b>初診患者の医療面接（急性症状、慢性症状）</b>	1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 <b>[D-2-1-1, E-2-1]</b> 事前学修：歯科治療時に注意しなければならない全身的な疾患と処方されている薬物について調べておく。 ・抗凝固薬、免疫抑制薬、骨吸収抑制薬、薬の相互作用など。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。

実習	1/19 (火)	1 2	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 平野大輔講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 太田藍理助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>手指消毒(衛生的手洗 い・擦式消毒)と手袋 の装着、単純抜歯(滅 菌手袋の装着と廃棄を 含む)</b>	1. 手術前の手洗いが適切に実施できる。 2. 滅菌グローブを適切に装着できる。 3. 普通抜歯の器具の準備および抜歯操作が実施できる。 [D-5-4, E-1-1-1 ~5, E-5-3-5] 事前学修：手洗い・滅菌グローブの装着、抜歯器具の準備・抜歯操作について講義レジメ、実習書を確認してから臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。
実習	1/19 (火)	3 4	野田守教授 浅野明子准教授 東兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 高満正宜助教 (歯科保存学講座 う 蝕治療学分野)	<b>ラバーダム防湿、う蝕 罹患歯質の除去、コン ポジットレジン修復 (単純窩洞)</b>	1. ラバーダム防湿を適切に実施できる。 2. 罹患歯質を適切な切削器具を用いて除去できる。 3. コンポジットレジン充填を実施できる。 [E-5-3-1] 事前学修：ラバーダム防湿、う蝕象牙質の除去、コンポジットレジン充填について講義ノート、実習書を確認してから臨むこと。理解ができない場合は、教科書(医歯薬保存修復学)にて確認する。
実習	1/20 (水)	1 2 3	佐藤宏明講師 原総一郎助教 米澤悠助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有 床義歯・口腔リハビ リテーション学分 野) 今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福德暁宏講師 斎藤裕美子助教 佐々木溪斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 (歯科補綴学講座 冠 橋義歯・口腔インプ ラント学分野)	<b>支台歯形成、概形印象 採得、補綴前処置(レ ストシートの形成)</b>	[D-5-3-1、D-5-3-1-1、D-5-3-1-4] 事前学修：補綴学のクラウンの実習書の支台歯形成に関する手技と使用する機材を確認しておくこと。 [D-5-3、D-5-3-1-5、D-5-3-2、D-5-3-2-3] 事前学修：概形印象採得と補綴前処置(レストシートの形成)に関する有床義歯補綴学および冠橋義歯補綴学の講義レジメおよび実習書の内容を確認しておくこと。所用時間30分程度 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所用時間45分程度。

## 教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	メディカル・インタビューマニュアル第3版：医師の本領を生かすコミュニケーション技法 第3版	福井 次矢 監修	インターメディカ	2002
参	POSによる歯科診療録の書き方	日野原 重明 監修	医歯薬出版出版	2005
参	臨床口腔診断学	内山 洋一ほか編	国際医書出版	1994
参	総合口腔診断学	増田 屯 編	砂書房	1996
参	スタンダード社会歯科学第8版	尾崎哲則ほか 編著	学建書院	2023

## 成績評価方法・基準・配点割合等

講義、実習いずれとも合格したものを合格とする。  
 講義：レポート課題により評価する。レポート評点65点以上を合格とする。  
 実習：実習過程、実習試験で評価し、実習評点65点以上を合格とする。

到達目標	DP	レポート	実習課程・実習試験	合計
1、2	4	40		40
3	4		20	20
4、5	1、4		30	30
6	4		10	10
<b>合計</b>		<b>40</b>	<b>60</b>	<b>100</b>

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

一般的な講義に加えて、相互実習、相互評価の機会を設け、伝える力の強化を図る。  
 講義資料は1日前までにWebClassにアップする。または、講義、実習時に資料を配布する。  
 インターネット上の教材（DESS問題、WebClass教材）を利用することがあるので、学生は講義室でインターネットに接続可能なPC、タブレット等の準備をしておくこと。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

## 授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的